

様式3 令和6年度新座市学校評価システム学校運営協議会による評価シート

目指す学校像 (重点目標)	片山を愛し、「人・自然・社会」とのつながりを大切に ユネスコスクール片山小学校
------------------	--

学校名	新座市立片山小学校
実施日	令和7年1月16日

<記入の仕方>

- 「自己評価」及び「学校運営協議会による評価」の欄には、S A B Cを記入してください。
○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるか特記事項がある場合のみ記載してください。

評価項目「組織運営」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、働き方改革を進めるため、校務分掌や教育課程等を適宜見直し、教職員の意識を高めるよう組織的に取り組んでいる。	A	・基本的に働き方改革を進めるために、校務分掌の振り分けや教育課程の編成を行っている。 ・成績処理期間を設けることで、期日までに提出ができるよう配慮されている。 ・ノー残業デーを意識して仕事ができている。 ・教員が働きやすいように考慮し、負担が分散するような編成にしている。 ・一部の職員や時期によって仕事量が変わってくるのが問題である。 ・働き方改革を推進するのであれば、見通しのある計画をすることが必要である。	A	・校長の経営方針に基づき組織的に教職員の意識を高める取組が大変よく整備されている。 ・学校における働き方改革の推進や業務の適正化に向けて積極的にコミュニケーションを取り、理解や協力を得ながら粘り強く取組を進めていた。 ・成績処理期間の設置があり、余裕をもっている。また、ノー残業デーの意識も高い。 ・時に多数の仕事を抱えると余裕がなくなるため、スムーズな業務になるよう、さらに計画的に進めるよう期待する。 ・150周年記念行事があり普段より負担が増え大変だったと考える。 ・市内で一番歴史のある学校として地域とともにある学校づくりを進めている。 ・職員が相互に連携して個々の役割を自覚し、主任・校務分掌を活用して、サステナブルな組織力のある学校運営となっており高く評価したい。 ・校長の経営方針に基づき、学年・学級経営が適切に行われており、記念行事を始めとして、学校からの掲示物、学校内での授業進行状況、児童一人ひとりの個性に寄り添った丁寧な学習指導等々、学校運営・学校経営に向けた実践的教育活動が充実しており素晴らしい。

評価項目「学力向上」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、各教科の指導において「見方・考え方」を働かせ、カリキュラム・マネジメントを生かした授業を展開し、資質・能力の育成に努めている。	A	・校内研修ではカリマネ部を設置しており、研修にも力を入れているため。 ・学びの木を掲示し教科のつながりを可視化している。 ・各教科において「なぜ」や「どうして」の考えを大切に授業づくりに取り組んでいる。 ・各教科の「見方・考え方」と聞かれてどれだけの職員が答えられるのか疑問である。 ・学校課題研究で扱っている、総合的な学習の時間の見方・考え方については、自信をもって答えられるようにするべきである。	A	・教職員は校内研修での取組を各教科で実践し、発展させて「なぜ?どうして?」の考えを大切に授業づくりに努力している。 ・「学びの木」提示を活用した教科横断的なつながりを意識させる授業展開からも伺える。 ・互いに色々な意見を尊重し合い、認め合い、話し合えるクラスづくりに期待する。 ・授業は教師と子どもたちで能力に応じた声かけ等で素晴らしい展開になる。 ・児童一人一人の個性を尊重し、学びへの基礎学力を養い「学びの価値」を発見し「学びの本質」を知り「学ぶ姿勢と学習意欲」の萌芽を育て、能力開拓の育成に努めている。 ・充実して良好な時間の流れを感じられる授業が数多い。 ・授業を丁寧に進める中で、子供たちの感受性に働きかけ「見方・考え方・感じ方」を豊かに成長させて、未来への夢や希望に結びつけ、言葉の一つ一つ慎重に選びつつ、無限の可能性が獲得できる伸びしろのあるカリキュラム・マネジメントを生かした授業が展開されており評価できる。 ・各教科の指導を通じて「学びを学ぶ」「見方・考え方」その価値を探りながら、資質・能力の育成に努めて、将来の大きな可能性に向かって羽ばたいて欲しいという教職員・教員の思いが、込められた授業進行に感動を覚える。

評価項目「豊かな心の育成」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをする環境を醸成している。	A	・挨拶運動が活発に行われており、挨拶運動を促す取組(いいねカードなど)も行っているため。 ・挨拶運動や、すれ違った際には積極的に教職員は挨拶に取り組んでいる。 ・委員会を中心にしながら各学年で挨拶運動をするようになっている。今後はさらに教員や地域も連携してみんなとあいさつするよさの価値づけができるとよい。 ・基本的にはできている。次の段階として場に応じた対応ができるときさらに良い。 ・児童にあいさつを推進している身として、まずは教師が範を示すべきだと考える。児童はあいさつはするが自分たちから進んでする児童は少ない。徹底的にやるのであれば、教師の意識改革も必要である。	A	・校長や教職員が子供たちの中に入って、通学してくる児童に「あいさつ」する姿は、片山小学校の毎日の風景となって定着している。教職員も子供たちと一緒にあって、明るく、元気よく声を出し、笑顔であいさつする、その様子を見て、地域の方や見守り通学応援の保護者の方も一緒にあって、「あいさつ」に参加してくれる姿が見られ、あいさつの声が元気に響き渡る。 ・代表委員会を中心とするあいさつ運動意識が高まっている。 ・保護者アンケートからの評価も高く、笑顔で元気にあいさつする児童や教職員の声の響き渡っている姿は微笑ましい。 ・保護者・地域・学校が一体となって粘り強く、諦めず、自分から声かけをしていくことが大切。 ・地域とも連携し活動することで大変よくなっている。 ・進んでということでは少ないが、笑顔で接してくれている。個人的に「コスモスのおばちゃん」と声をかけてくれ、親近感も生まれた。 ・多くの場面で人と接する機会が必要。 ・大人が範を示すことが大切。 ・児童を中心に、教職員、保護者、地域の人、通行人、皆が笑顔で明るく元気にあいさつを交わす姿が見られる。

評価項目「健康・体力の向上・安全」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、体育や部活動、休み時間などを通じて、児童生徒が意欲的に運動に親しむような取組を行い、体力向上に努めている。	A	・今は、教師の手が入って、活動に参加している児童も多いが、続けていくことで児童が主体的に参加し、体力向上に努められるような素地ができてくると考える。 ・体力向上委員会を中心に、片山小全体で取り組める様々な企画が行われている。 ・年間縄跳びの励行、タイムラン、休み時間の体育館開放など様々な形で実施できている。 ・常時活動的な取組や時間の確保がなかなか難しく、運動の機会はまだ少し設けられるとよい。 ・休み時間に外に出ない児童もいるため。教師の指導、声かけも必要。	A	・体力向上委員会および生徒指導委員会の提案により四季折々の「楽しめる運動」を工夫し、体力向上に努力している。 ・運動会では学校、子どもたちが活気あふれる種目を展開し、一体となって取り組む姿は感動であった。 ・体力の維持向上は生活の支え、学習意欲の源となるので新企画を構想し、更に努力していただきたい。 ・児童が限られた時間や場所で主体的・意欲的に運動全般に参加できる、参加したいと思えるような魅力ある工夫がほしい。 ・全体で取り組める企画を目指す体力向上委員会の活躍に期待したい。

評価項目「健康・体力の向上・安全」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	A	・マニュアルの把握、不審者対応訓練の早期実施において昨年よりも改善された。 ・年度当初にアレルギーについてやのどに食べ物を詰まらせたときの対応についても伝達があったので、ある程度の事故や不審者侵入等の緊急事態に備えられる素地や連携は備わっている。 ・避難訓練等を通して具体的な行動、対応について詳しく確認する機会がある。 ・早い段階で不審者対応訓練を実施している。 ・型にはめない（よりリアルな）対応訓練の実施やマニュアルの見直しなどきちんとできている。 ・マニュアル等は適宜実態に合わせて変更や更新がされているところがよい。あとは具体的な事例をもとにシミュレーションの機会があるとよい。	A	・昨年度評価と比べて効果が上がっており適切に機能している。 ・学校は災害時に避難所となるので地域の連携体制の整備も考えていく必要があるかと考える。（教職員もどう動いてよいかのシミュレーション作り） ・不審者対応訓練、マニュアルの全体共有把握の体制が整えられている。 ・迅速に対応できるよう定期的にマニュアルを見直し体制の整備が図られている。 ・地震や自然災害、不審者などの想定外の事故や災害に備えて、市危機管理室とも連携して危機管理マニュアル等を再点検するなど、緊急事態に対応できる体制整備の継続的維持が望まれる。 ・緊急病時の情報、ケガ情報は、隠すことなく迅速に保護者に伝えられ、不審者情報は、地域と連携して対策を練り定期的に防犯連絡体制を組み、地域間の意思疎通を図っている。安全に対する着実な体制作りを評価したい。 ・新設門の扱いにも少しずつ慣れてきて安心感も出てきた。 ・地域と協力して災害講座を進めてほしい。 ・門扉にインターホン、通用門とオートロックの設置を市に粘り強く訴えることが必要。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	S	・毎日のホームページの更新は本当に素晴らしい。学級一同楽しみにしてる。あとは保護者への認知をもっとあげられるような取組や周知があるとさらによい。 ・片山小のホームページ「かたやまっこ日記」では、児童の様子などを詳しく記載している。 ・学校からの発信はできている。双方向のやり取りにつながるようなツールに向けての活用ができればなおよい。	S	・教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に安定して情報提供されることが、学校への関心の高まりを生み、地域住民や保護者からの信頼関係にも上昇力が加わり、好循環の流れを生み、期待と理解を深めている。 ・校長による毎日のHP更新は子どもたち、教職員も楽しみにしている様子が伺える。 ・学年・学級だより、保健、給食だより等の定期的発行も順調で、情報源も充実しており、学校・学級の様子がわかりやすく紹介され理解しやすい。発行・発信関係者の真摯に取り組む姿勢を評価したい。 ・学校、学年の様子が具体的であり、詳細にわたって提供されている。 ・保護者のアンケートからも伺える。 ・電子配信にしたことで学校からの発信が確実に保護者へと伝わっているかは疑問が残る。 ・特に大切な伝えるべき事柄は教師から児童に発信し、児童から家庭でも話してもらうと良い。 ・学校応援団の活性化を希望。 ・学校からの情報発信は保護者や地域にとって喜ばしいことだ。 ・デジタル情報とアナログ情報を上手く使い分けバランスよく考えて情報発信しており、情報発信に丁寧で繊細な工夫の輻が見える。